

令和7年度医学部看護学科入学者選抜

【一般選抜（前期日程）】

【専門高校・総合学科卒業生選抜】

試 験 問 題

小 論 文

注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は表紙を除いて5枚です。指示があってから確認してください。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 4 解答表記では、2桁以上の算用数字と小数点を含んだ2文字の数字は半角扱い（1マスに2文字、小数点があれば、これを含める）で書いてください。

例) 2018年 → 20 18 年 , 1.5 → 1.5

また、アルファベットの小文字は半角扱い（1マスに2文字）で、アルファベットの大文字は全角扱い（1マスに1文字）で書いてください。

- 5 問題紙は持ち帰ってください。

問題

次の課題文及び資料を読んで、問1から問4に答えなさい。

〔課題文〕

Z世代にはネタバレ消費と呼ぶべき習慣が根付いている。2021年6月に「Business Insider Japan」に配信された「Z世代に流行する『ネタバレ消費』とは？「失敗したくない」若者のホンネ」という記事では、「観たい映画や今度行くライブの中身、友達に渡す誕生日プレゼントなど、何でも事前に『ネタバレ』することがトレンドとなっている」というZ世代の動向が報告されている。

理由は「失敗したくないから」。

残酷シーンが含まれる映画なら、その事実を先に知っておくことで、流血が苦手だから観ないでおこうという選択ができる。クライマックスが感動で泣けるのなら、泣く気満々の心構えで観に行きたい。

----- (中略) -----

「ミレニアル世代が“未体験”に価値を求めるとすると、“追体験”に価値を求めるのがZ世代。彼らは先のわからないことや想定外の出来事が起きて気持ちがアップダウンすることを、“ストレス”と捉える傾向が強い」(前述の配信記事)

ストレスはリスクに他ならない。避けられるものなら避けたい。ミステリーもので犯人を先に知っておけば、想定外の出来事が起きて気持ちがアップダウンするのは避けられる。それもひとつのリスクヘッジだ。

そのリスクには当然、「回り道」や「コスパの悪さ」も含まれる。

すべての若者がそうだとは言わないが、とりわけZ世代を中心とした層に、「回り道」や「コスパの悪さ」を恐れる傾向は強い。

仕事でコスパを追い求めるならともかく、趣味など心の赴くままに好きにやればよい……はずだが、手っ取り早く重要作品を押さえたい、ポイントを知りたいと、彼らは切に願う。なぜそこまで、“無駄なこと”に時間を割くのを恐れるのか。

博報堂のDYメディアパートナーズメディア環境研究所・森永真弓氏は、昔と比べて子供をめぐる環境が全体的に“親切”になっている点を指摘する。

「大人が子供の気持ちを先回りして察しようとする。子供たちは、とにかく大事に大事に育てられているので、痛みに弱い。失敗したり、怒られたり、恥をかいたりすることに対して、驚くほどに耐性が低い」

Z世代の親世代は2022年現在、40～50代。子育てのトレンドは「締め付ける」より「優しく」だ。友達感覚で子供と買い物に行ったり、恋バナをしたり、トレンドを共有したりする親も多い。

加えて、学校も子供たちに強く言わない。体罰はもつてのほかだが、少しでも厳しく言えばモンスターペアレントが怒鳴り込んでくるからだ。

このことは、職場の新入社員にも顕著だ。年長世代が懐の深さを見せたつもりで口にする「失敗してもいいから、まずはやってみろ」は、彼らにとっては「いじめ」にも近い。その結果失敗して、上司から失敗の理由を指摘されたら、「そんなに言うんだったら、先に正解を教えてく

ればいいじゃないか……」と感じるからだ。

「そういう上司は“乱暴”認定され、慕われません。見えている失敗を前もって説明してくれない、不親切で嫌な人と思われるんです。『やってみて、失敗しないとわからない、身にならないことがある』という理屈は通じません。すべての新人がそうではないですが、ここ最近増えた傾向です」(森永氏)

なにより彼らは、失敗したこと自体に大きく傷つく。失敗したことが周囲に知れて恥ずかしいから傷つくのではない。「誰に気づかれるでもないような自分の失敗ですら、彼らはいやがるんですよ。“つまらない作品に当たって時間を無駄にすること”も、そこに含まれます」(森永氏)

このことは、「回り道」や「タイパが悪い」を恐れる彼らの気質に直結している。

「つまらない作品に当たって時間を無駄にすること」は、失敗。そのような価値観は、一体どのようにして育まれたのか。背景として、大きく2つが考えられる。

ひとつめは、キャリア教育だ。

1999年に中央教育審議会がキャリア教育を提唱して以降、中学・高校・大学では、社会に出て就業することを踏まえた教育が推進されてきた。それはそれで意義のあることだが、そのマインドが行きすぎれば、「自分の就きたい職業にとって、この教科は時間をかけて学ぶ必要がない」という判断を、早々に下すことにもなりかねない。

学問にまで、タイパを求めるようになるのだ。

ただ、それは仕方のないことだ。大学で「5年後、10年後の自分のロードマップを描け」などと指導されれば、それを達成すべく、在学中から綿密なライフプランやキャリアプランを組み上げる必要がある。悠長に回り道などしている暇はない。「とりあえず就職してから、自分の適性や本当にやりたいことを模索していこう」が許されない時代であり、世相なのだ。

「無論、大人は効率を発揮する局面と、発揮しないでいい局面を理解していますが、子供にはその区別がつきません。10代のうちからそんなふうに教えられてきたら、すべてを効率化しなきゃいけないと思ってしまうですね」(森永氏)

「ABEMA Prime¹」に ZOOM²出演した立教大学大学院客員教授・牛窪恵も、「タムパ(タイパ)最優先になった理由」のひとつとして、2000年代頃から学校や職場でも時短・効率を求めはじめた風潮を挙げた。

2020年7月7日には、1976年生まれの探検家・角幡唯介^{かくはた ゆうすけ}のあるツイートが話題になった。若い記者からインタビューで、「角幡さんの探検は社会の役に立ってないのでは」と聞かれて絶句したのだという。

これを受けて行われたインタビューで同氏は、相手が20代くらいの地方紙の記者だったことを明かし、こう述べた。

『本当にみんな、そんなこと思ってるんですか?』と聞き返したら、自分たちの世代は社会への還元とか生産性の向上を考えるべきだという思考を強いるような『圧力をすごく感じます』と」

記者が本当に20代であれば、ゆとり世代もしくはZ世代だ。キャリア教育の一環として、「自分の学びやスキルや行動が、社会のどんな役に立っているのか」を詰めて考えさせられてきた可能性は高い。さぞ「圧力」に苦しめられたことだろう。

同記事ではインタビュアーが「進路学習の冊子で将来の夢を書き込む欄に『その夢はどのように社会に役立ちますか?』との問いがあり苛立っていた、という大学生のリプライが印象的でした」とも言っている。

い 夢にすらコスバを求める、というふうにも読める。

もうひとつが、SNS³によって同世代と自分とを容易に比較できてしまうことだ。SNS の常時接続は、会ったこともない自分と同世代の活躍を可視化させた。そのことは相当量のストレスも運んでくる。“まだ何も成し遂げていない自分”を、否応なしに焦らせてしまうからだ。

「Twitter⁴やインスタグラム⁵では、友人たちはもちろん、同世代でいちはやく何かを成し上げたり、注目を浴びたりする人の動向が、いつでも視界に入っている状態にある。常に“横を見ている”んです。だから、自分がちょっとでも効率の悪いことをしたら、“同世代から遅れてしまった”、つまり“失敗してしまった”と思いがやすい」(森永氏)

“横”なんか見なければいいじゃないかと言ったところで、彼らの最重要コミュニケーションツールである SNS を手放すわけにはいかない。Z 世代の人間関係の大半がそれで成り立っているし、就活の情報収集にも絶対に必要だ。

----- (中略) -----

バブル期ど真ん中、1990 年の標準的な大学生のように、スキーや合コンや海外旅行に遊び興じる余裕は、現在の大学生にはない。そんな中、趣味と呼べるものの中で最もリーズナブルなのが、映像の視聴だ。You Tube や ABEMA や TVer⁶は無料。有料のサービスでさえ、月に数百円から千数百円で無尽蔵に観られるのだから。

ただ、観られるのはいいが、時間もない。ヒアリングしたある女子大学生は、平日午前 5 時から 9~10 時頃まで時給の高い早朝バイトをこなし、それから大学に行って授業を受け、夜 8 時に帰宅。自炊して食事を取り、風呂に入って就寝する毎日を送っていた。

早起きなので飲み会など行けるわけがない。学校の課題は授業の合間に済ませる。その合間を縫って、大量のアニメやドラマを観る。とにかく忙しい。

仲間内でのコミュニケーションのため、LINE⁷グループの和を保つため、30 年前に比べればおそらく何十倍、何百倍もの本数が流通するコンテンツを、次々とチェックしなければならない。その量は早送りしなければ消化できないし、慎重にリスクヘッジしなければ、ただでさえ貴重なお金をドブに捨ててしまう。

彼らはとにかく余裕がない。時間的にも、金銭的にも。そして何より精神的に。

稲田豊史著「映画を早送りで観る人たち ファスト映画・ネタバレ——コンテンツ消費の現在形」光文社 (2022) から一部改変して作成

¹ ABEMA Prime : ABEMA が配信するニュース情報番組

² ZOOM : Web 会議を実現できるクラウドサービスの一つ

³ SNS : ソーシャルネットワーキングサービス。インターネット上で人々がつながり、情報を交換するためのサービス

⁴ Twitter : 以前あったソーシャルネットワーキングサービスの一つ。現在は X という名称になっている

⁵ インスタグラム : 写真や動画を投稿できるソーシャルネットワーキングサービス

⁶ You Tube, ABEMA, TVer : それぞれ、動画配信サービスの名称

⁷ LINE : 音声通話やテキストチャットが可能なソーシャルネットワーキングサービス

[資料]

表1 働く若手社員（20代）の仕事観（仕事において譲れないもの・価値観）
（n=509）

| | | |
|-------------|------------------|-------|
| □仕事観を持っている | 誰かに語れる明確な形で持っている | 14.3% |
| | 語れるほどではないが持っている | 32.8% |
| ■仕事観を持っていない | 考えたことはあるが固まっていない | 26.5% |
| | 持っていない | 26.3% |

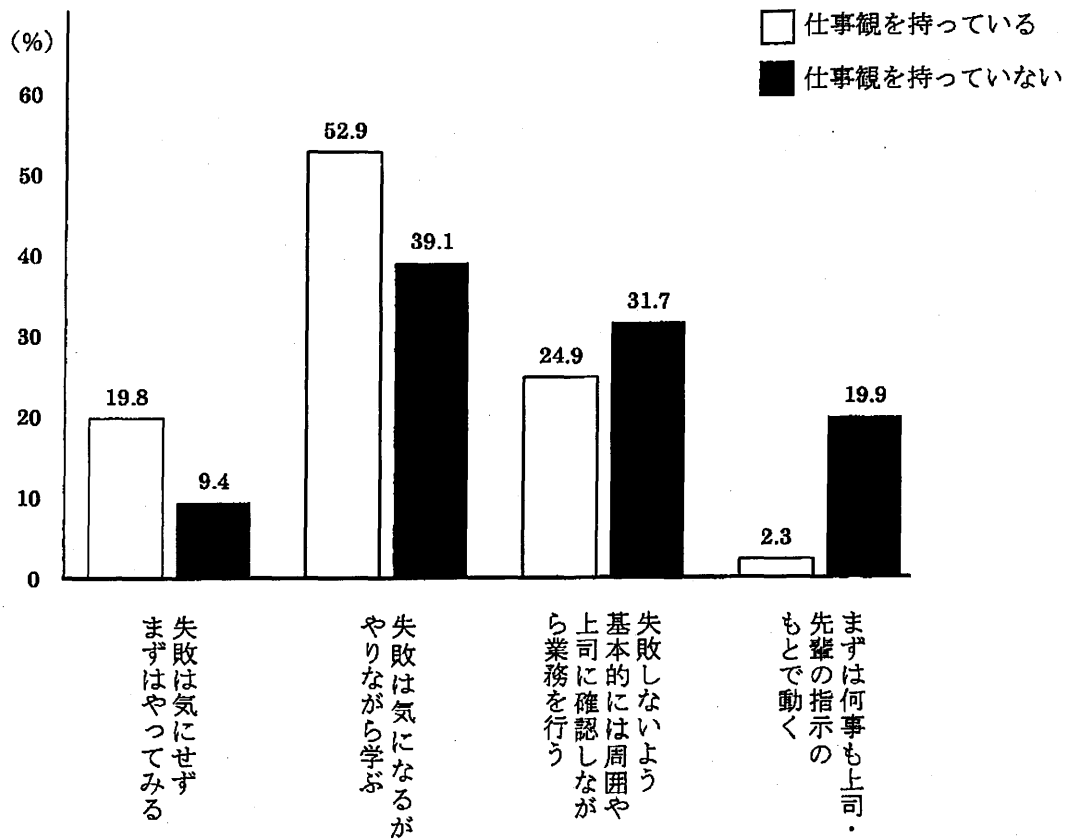


図1 仕事観の有無を集計軸として見る失敗観 (n=509)

(表1、図1ともに、リ・カレント株式会社「2021年 最新若手意識調査」から一部改変して作成)

- 問1 下線部ア) “つまらない作品に当たって時間を無駄にすること”は、失敗という価値観が育まれた背景について、230字以内で説明しなさい。
- 問2 下線部イ) 夢にすらコスパを求めるとはどのようなことを指しているか、60字以内で記述しなさい。
- 問3 資料の表1「働く若手社員(20代)の仕事観(仕事において譲れないもの・価値観)」と、図1「仕事観の有無を集計軸として見る失敗観」から読み取れることを350字以内で記述しなさい。
- 問4 課題文と資料をふまえ、看護職を目指すあなたにとって必要な「回り道」は何か、あなたの考えを500字から560字で記述しなさい。